

KUMAMOTO YMCA NEWS

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION

YMCA November 2015 vol.522

11



「お弁当美味しいね」黒川保育園 秋の遠足

C O N T E N T S

- ① 人と人とのつながりがもたらす地域の防災力
- ② 防災ワークキャンプ/防災ワイリンピック
こどもえいごスクールキャンプ
- ③ ユースフェスタ2015
アジア・太平洋YMCA大会
REPORT ソフトバレーボールフェスティバル
日韓医師蹴球親善試合
- ④ タラント No.21 「豊かさと共に」
Topics リフレスおおむた/阿蘇YMCA

中面 国際協力青少年育成年末募金

人と人とのつながりがもたらす地域の防災力

9月22日(火祝)、23日(水祝)にかけて「防災ワークキャンプ」が阿蘇YMCAで行われました(2面に関連記事)。神戸市職員として阪神・淡路大震災の被災者支援業務を経験し、今回、ワークキャンプを企画した熊本県立大学教授の明石照久さんに、まちづくりと防災について話を伺いました。

私が神戸市職員の頃に体験した阪神・淡路大震災は、人口の非常に多い都市を直撃し、被災者は23万人を超え、死者も6千人を超える大きな被害をもたらしました。このような規模になると、行政が出来ることに限界があります。自衛隊・警察・消防といった行政の力で救い出せた人は2%にも届いていません。道路の分断、障害物などで、出動しても現地にたどり着くことすらできなかったからです。そのような状況では、東北地方で言い伝えられる「津波でんでんこ



明石照久さん
熊本県立大学教授
熊本YMCA常議員
上通YMCA運営委員
神戸市役所を退職後、2006年に熊本県立大学に着任。専門分野は公共政策と公共経営。

「自分の命は自分で守る」ということしかできません。

防災・減災は日常的に備えること。そして最終目的は、いかに被害を少なくし、いかに命を守るかです。それを実現するためには、地域のつながりを確保することが肝心です。瓦礫の下敷きになっている人を助けようとしても一人ではできません。地域の人が力を合わせることで、一人の命を救うことができるのです。熊本市でも公園の片隅に様々な防災物資を保管・備蓄する防災倉庫が設置されるようになりました。しかし、物資だけあっても、それを使いこなせる人がいなければ、救いの手を災害の現場に届けることは難しいでしょう。また、公園の地下に防火用水の水槽が造られるようになり、熊本市でも白川公園などの地下に整備されています。これも消防、警察、自衛隊と地域の人たちが力を合わせることでその役割を果たします。人と人とのつながりは、いざという時に形をつくらうとしてもうまく動きません。人命救出は初動の3日間の動きに左右されると言われます。72時間が経過すると生存率は低下します。その間に現場にたどり着き、救い出すことができるのは地域の人々です。現在、県内の7割以上の地域で自主防災組織が結成されていますが、そのような組織力がいざという時に多くの人々を救うこととなります。

私は元町(神戸市中央区)の避難所の責任者として被災者支援業務に携わりました。その後、復興のまちづくりにおいて、市民の納得と協力がいかに大切かということを感じました。市民の意向を聞き出す上

わたしと聖句

申命記1章31節

また荒野でも、あなたたちがこの所に来るまでたどった旅の間中も、あなたの神、主は父が子を背負うように、あなたを背負ってくださったのを見た。

主に抱かれて

「人の一生は重き荷を負って、遠き道を行くがごとし急ぐべからず……」これは、徳川家康の人生訓といわれる冒

頭の言葉です。興味のある方はお調べいただければと思いますが、なるほどと、うなずける人生訓です。けれどもイエスは様はこう言われるのです「疲れた者、重荷を負う者は、だれでも私のもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイの福音書11章28節)と。

さて、引用しました申命記の御言葉は、モーセが40年の荒野の歩みを終え、約束の地を目前にしてイスラエルの民に告げた言葉です。それまでたどってきた旅の間中、不平不満の多い民を、神ご自身が背負うようにして導いてこられたと、しみじみと語るのです。

私も、今日まで歩いて来た人生を振り返ってみると、正に神様に背負われて来たことと確信できます。このところを新改訳聖書は「人がその子を抱くように、あなたの神、主が、あなたを抱かれたのを見ておられるのだ」とあります。神様のお心はひとつ、それは「愛」です。あなたも、神様の目から見ると「高価で貴い。あなたを愛している。」(イザヤ書43章4節)と言われる存在なのです。神様は今日もあなたを背負い、抱いて、あなたと共に歩んでくださるお方です。

日本ナザレン教団 熊本ナザレン教会
中出 牧夫

で役に立ったのがワークショップの技法です。幸いにも震災の半年前、ワークショップを進行させるファシリテーションを学ぶ機会があり、復興を進める際にも活かすことができました。ファシリテーションとは、ワークショップの参加者同士に問題を共有させ、発言を促す技術。その担い手となるファシリテーターは、自己紹介ゲームなどのアイスブレイク、声の出し方、板書などのスキルを身に付けます。阪神・淡路大震災が発生したこの年はボランティア元年と言われ、人と人をつなぐ場づくりを担うファシリテーターへの関心も高まりました。地域の復元力＝レジリエンスは、地域住民の支えがあって発揮できるもの。復興プロセスでも人と人とのつながりが重要になってくるのです。

熊本YMCAでは、上通YMCAやながみねファミリーYMCAで防災をテーマにしたプログラムを実施するなどの取組みを行っています。

9月には阿蘇YMCAで「防災ワークショップ」も開催。スタップや学生ボランティアに防災・減災の実践の現場を提供しています。YMCAの専門学校には建築科や福祉系の学科があります。また、Y



4月に実施された上通YMCA防災ワークショップ

MC Aでは様々な国の言葉を教える語学教育も行っています。指定管理者として公共施設に関わっていることも、存在を広く知らしめています。スタップや学生、多くのボランティア……。YMCAの理念に共感して集まった人々たちを活用していくことで、地域防災に限らず地域を元気にする施策を支える存在になることは間違いないと思います。

災害ボランティアを担う次世代のリーダーを養成するには、地域でも課題となる世代間交流も必要になります。防災を切り口にした「防災キャンプ」もうまく活用すれば、県立大学の学生にも、YMCAの若いスタッフにも非常に良いトレーニングの場になると思います。これから高齢化が進みますので、高齢者との付き合い方や語りかけ方も若い人たちに覚えてもらわないといけません。自分とは違う世代と普段から話す機会をつくってあげれば、共通の体験が蓄積され、共通の話題も生まれ、お互い心を開いて話ができるだろうと思います。

地域のつながりをつくるのは人です。緊急時に力を発揮するのも、日常的に培った人のつながりです。その関係性を保つにはメンテナン스가必要で、1年に一度は顔を合わせたいもの。YMCAが地域に開かれた活動を行い、それが地域の人々に「おもしろいね」と感じていただければ次につながります。そこからさらに核になる人同士が繋がっていき、新しい組織がどんどん生まれていきます。YMCAの様々な活動が相乗効果を生み出していくこととなり、良い方向に向かっていけるはずですよ。

阿蘇で楽しく防災を学ぶワークキャンプ

9月22日(火・祝)、23日(水・祝)にかけて、阿蘇YMCAで防災ワークキャンプが開催されました。熊本県立大学の学生と教授が1泊2日で、九州電力が地域やNPOと一緒にボランティア活動を行う「こらボラQでん」の皆さんとYMCA学院高等学校の生徒たちが2日目からデイキャンプとして参加しました。

1日目は、YMCA的の石キャンプ場に造られる避難所予定地の整備、その後の石地区、跡ヶ瀬地区に分かれてフィールドワークを行い、九州北部豪雨災害で被災された人々への聞き取りを行いました。その後、阿蘇社会福祉協議会の山本由紀子さんより災害時の様子を伺いました。夕食は、的の石地区の皆さんも一緒にバーベキューを楽しみ、学生たちは地元の人々と親睦を深めました。2日目は「こらボラQでん」と高校生も合流。的の石キャンプ場の草刈り、キャンプ場内に植えたブルーベリーの収穫などを行いました。

昼は阿蘇YMCAでキャンプグッズを使って防災調理に挑戦。緊急時でも、飯ごうや燻製機、エコ窯などを使って調理できることを知り、同時においしい昼ご飯を食べました。午後は、阪神・淡路大震災後、神戸市職員へのインタビューから生まれた「防災クロスロード」を体験。これは緊急時の対応をYES・NOで答え、大人も子どもも一緒にできるシミュレーションゲームで、ペットを避難所に連れて行くか、町内



会に入るか、津波が来るまであと10分という時に近所の一人暮らしの高齢者を助けに行くかなどの問いにカードを使って意思表示します。YESとNOのいずれかが正解ということではなく、災害時のとっさの判断をどのように行うか、なぜそうしたかを話し合うことで、防災への認識を高める機会になりました。

今回、参加した県立大学の後藤奈那子さん(総合管理学部総合管理学科2年)は、「九州北部豪雨災害では、私の住む菊池市でも避難勧告が出ていましたが、私は知らずに登校してしまいました。そのため、阿蘇市ではどのように情報の共有がされていたのか知りたい」と思い参加しました。フィールドワークで被災された方々に話を伺うと、高齢化が進む地域は助け合いが大事、そのためには、あいさつなど日頃のお付き合いが土台になっているということでした。また、的の石地区の皆さんとバーベキューをしたり、子どもたちとふれ

あったり、防災を学ぶだけでなく楽しいことも盛りだくさん。自分の住む地域でもこのような機会をつくる事ができたらと思いました。

社会科の教員を目指す宮崎秀人さん(同大同学科4年)は、「12年前の水俣豪雨災害では、自分が住む隣の地区が被害に遭い、幼なじみのお父さんが亡くなりました。また、大学生になって九州北部豪雨災害を体験し、被災した時に自分はどうすればいいか、何ができるのか」と考えるようになりました。今回、地域の方々との交流や、建設中の砂防ダムの見学で、住民同士の連携や行政による災害予防の取組みの重要性が分かりました。将来、教員になった時、子どもたちに防災意識を持つことの大切さを教えられるように、私自身も学び続けたいと思います」と話してくれました。

今回のキャンプを通して、多くの参加者が様々な防災の知識を身に付けることができました。

YMCA会員がスポーツで交流

9月27日(日)、中央YMCA体育館で第23回会員スポーツ大会が開催されました。今年は「防災ワイリンピック」と称して、バケツリレーや担架での搬送体験などの防災活動を交えながら交流。177名が参加し、5種目を行いました。

防災バケツリレーでは、水に見立てて運ぶ紙花がふわりとこぼれ落ち、参加者たちは大苦戦。搬送体験では、5名一組で毛布と物干し竿を使って、即席の担架を作成。運ばれる参加者は緊張の面持ちでしたが、全グループ無事にゴールすることができました。



その他、パン食い競走ならぬ、うまい棒食い競走や三輪車リレーも行われました。小さな三輪車に戸惑う大人たちをよそに、子どもたちは余裕の笑顔。最後の種目、綱引きは4チームに分かれたのトーナメント戦が繰り広げられ、応援にも熱が入りました。皆で防災について考えながら、楽しく体を動かすことができました。

子どもたちが英語を使ってキャンプ

YMCAこどもえいごスクールの秋期キャンプが、9月19日(土)〜20日(日)の日程で行われました。年長から小学6年生までの37名が参加し、阿蘇の豊かな自然の中で過ごしました。

毎年、テーマを変えて行うこのキャンプ。今年も「Diversity(多様性)〜みんなちがってみんないーくキャンプ」と名付け、様々なアクティビティを通して、「ちがいを認めあう優しい心」「友だちと協力する喜び」「気持ちや伝えあう大切さ」にふれました。

はじめは英語で話すことを恥ずかしがっていた子どもも、プログラムが進むにつれて生き生きとした表情に。知っている英語を積極



的に使って、リーダーや講師を驚かせる場面もあちこちで見られました。2日目のファイナルアクティビティで飛ばした風船と英語のメッセージは海を越えているんな国の人に届いているかもしれません。

会と新たな出会いを楽しみにしながらキャンプを終えました。

職員 眞西優治



キャンプの様子はWEBでもご覧いただけます



国際協力 青少年育成年末募金

2015.11.1 2016.1.31

ご協力をお願い

熊本YMCAでは、毎年、年末から翌年1月にかけて標記の募金活動を行っております。昨年度も皆様から尊いご協力をいただき、目標を上回ることができました。心より感謝申し上げます。

皆様からお寄せいただきました募金は、経済的に援助を必要とする子どもたちへの支援、世界中に広がるYMCAネットワークによる国際協力活動やこの活動を支える青少年育成、地球市民の育成などに用いられます。

私たちは平和の祈りを行うだけでなく、世界の平和への関心を更に深め、私たちにできる平和に繋がる様々な活動を行っていきたくと考えています。紛争や貧困、また自然災害などによって世界中の多くの仲間が苦しんでいます。現地での直接的な支援活動や子どもたちの心のケアを継続して実施する必要があります。

東日本大震災、九州北部豪雨、ネパール大地震など災害による傷は深く、被災者への支援は継続して行って参ります。

皆様にはこの様な募金の趣旨をご理解いただき、本年度もご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2015年11月 熊本YMCA 会長 菅 正康
募金委員長 田中 俊夫
総主事 岡 成也

2015年度 募金目標 1600万円

提出予定

- ★経済的な理由でプログラムに参加できない子どもたちのために 500万円
- ★経済的な理由で進学できない青少年の学びの場の提供のために 380万円
- ★地球市民育成のために 160万円
- ★国際協力活動のために 280万円
- ★障がい者の自立支援のために 80万円
- ★シニア世代の健康増進のために 40万円
- ★災害復興支援のために 50万円
- ★草の根活動支援のために 30万円
- ★事務費 80万円

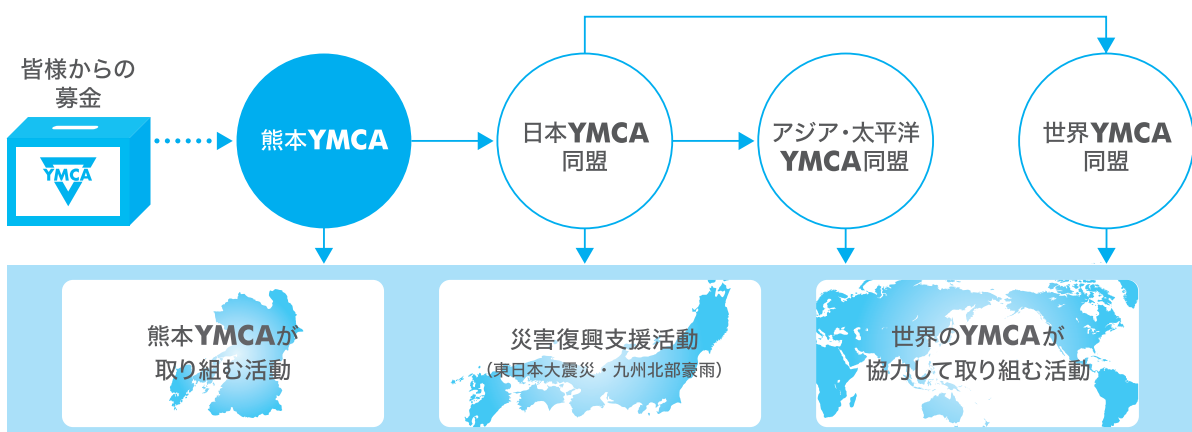
国際協力青少年育成年末募金ってなに？

地球上のすべての人々が、国や民族、宗教の違いなどを認め合い、平和にいきいきと暮らすことができる社会をつくるための募金です。

どうして募金が必要なの？

困ったり、悩んでいる人がいたらどうしますか。そんな相手のことを、“自分のこと”として考えてみませんか。世界や地球に生きる一人として、考え、行動すること、そして、みんなのいのちを大切にすること、募金はその気持ちを伝える一つの方法です。世界中に思いやりの心をわけてあげてください。

募金の流れ お寄せいただく募金は、国際協力・地域奉仕活動や青少年の育成、災害復興など様々な目的のために用いられます。詳しくは裏面をご覧ください。



子どもたちの
未来と共に

～世界中で、ともに分かち合う、平和な世界をめざして～

みつめています ひとつひとつのいのち

経済的な理由でYMCAプログラムに参加できない子どもたちのために

YMCAでは、スポーツスクール、野外活動、英会話などを通して子どもたちの心と身体を育むプログラムを行っています。経済的な事情などで参加できない子どもたちの参加費負担を軽くすることで、夢や未来に向かって頑張る子どもたちを応援しています。昨年は104名の子どもたちを応援することができました。

地球市民育成のために

YMCAは、次代を担うユースリーダーの育成のために様々な経験を提供しています。若者たちが、地球が抱える深刻な現状と社会への責任を認識し、あらゆるコミュニティが平和、持続可能な暮らしに向かうように働きかける姿勢を持つことを目指しています。



世界各国の若者が集う国際青少年平和セミナーにユースを派遣

国際協力活動のために

熊本YMCAでは日韓視覚障がい者青少年交流やタイの山岳少数民族の子どもたちを支援。また、長引く紛争と占領で負傷した青年のための職業訓練所支援、青年たちのグループ活動、子どものためのサッカー教室、フェアトレード事業の支援等、それぞれの抱える課題に対して活動している東ティモール、ミャンマー、インドネシア、カンボジア、パレスチナ等のYMCAを世界のYMCAと共に支えています。



タイの山岳民族の子どもたちが街の学校に通えるように若竹寮を運営(写真は2014年度のスタディツアーの様子)



アジア・太平洋YMCA同盟などと協力しながら東ティモールの若者や子どもたちを支援

募金方法 【受付期間:2015年11月1日～2016年1月31日】

直接お近くのYMCAへ募金をお持ちください。また、郵便振替や銀行振込、書留でも受け付けています。

■郵便振替

口座番号 01950-9-45588
加入者名 熊本YMCA本部事務局

■銀行振込

肥後銀行 新町支店(普)0310914
熊本YMCA賛助募金 理事長 菅 正康

※ご住所、氏名、ご入金額、お振込日をYMCAまでご連絡ください。
※YMCA窓口または振込で募金をいただいた方のお名前は、YMCA館内に掲示とYMCA NEWS 3月号に掲載させていただきます。掲示・掲載をご希望されない方は、お知らせください。

年末街頭募金活動:12月6日(日)県内各地にて

経済的な理由で進学できない青少年の学びの場の提供のために

経済的な理由で進学の際に選択肢が狭まってしまう学生に対して、進級や入学のお手伝いをします。昨年は、10名の学生の奨学金として活用されました。また、経済的に厳しい中、日本語学校で学んでいる留学生の支援も行います。

シニア世代の健康増進のために

YMCAのウエルネスとは、各人が、与えられた状況の中で、自らの潜在的な可能性を最大限に求める生き方です。適度な運動習慣を身につけ日常に必要な体力を維持し、シニア世代の健康寿命を延ばす働きを医療機関と連携して行っています。

災害復興支援のために

災害の際に弱者となる子どもや高齢者、障がい者、在住外国人などの方々のためにできることに、力を合わせています。東日本大震災、九州北部被災者支援を継続して行い、新たにネパール大地震被災者支援を行っています。



東日本大震災・九州北部豪雨被災児童を招待してあそぼうキャンプを開催



ネパール大地震緊急支援街頭募金にYMCA学院日本語科の留学生も参加

障がい者の自立支援のために

熊本YMCAでは、2012年より就労継続支援A型事業所「ウエルビー」の運営をスタートしました。さらに、A型事業所での就労が少し困難な方などに対しても様々な形で支援を行っていくことを目的に、作業訓練や、職場実習、就職後の職場定着支援などを行う「就労支援事業所」を立ち上げ、1,000,000円が障がい者自立支援のために活用されました。

■募金(寄附金)については、税制上の優遇が受けられます

熊本YMCAへの募金や寄附は、所得税の控除を受けることができます。確定申告の際には、熊本YMCAの各法人の発行する寄附金領収書の添付が必要です。

①個人の場合(A or Bで選択)

A. 税額控除 ～所得税額から直接差し引かれます～

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{寄附総額} - 2000 \text{円} \\ \hline \text{上限は年間所得の40\%} \end{array} \times 40\% = \begin{array}{|c|} \hline \text{控除額} \\ \hline \text{上限は所得税額の25\%} \end{array}$$

B. 所得控除 ～課税前の所得から差し引かれます～

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{寄附総額} - 2000 \text{円} \\ \hline \text{上限は年間所得の40\%} \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{所得税率} \\ \hline \text{課税所得額によって異なる} \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{控除額} \end{array}$$

※2,000円以下の寄附は対象外です。 ※他の控除等により変動します。

※所得税率は課税所得額によって異なります。

②法人の場合 一般の寄附金とは別枠で損金算入ができます。これにより、法人税額が軽減されます。

国際協力青少年育成年末募金に関する情報は、熊本YMCAのホームページでもご覧いただけます。

<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/>

熊本YMCA 募金

検索

ユースが語るYMCAの感動体験

10月3日(土)、上通YMCAで「ユースフェスタ2015」を開催。様々なプログラムに参加したユースの皆さんの感動体験が発表されました。

5月3～5日の「西日本地区YMCAリーダー研修会」では、九州各県のリーダーと活動し、意見を交換。決意表明では、海に向かって理想のリーダー像を大声で叫んだそうです。この気持ちを忘れず、楽しみながら子どもたちを指導していきたいと述べました。



8月4～6日、11の国と地域から約70名のユースが参加した「国際青少年平和セミナー」では、被爆体験者、福島原発被災者の体験に耳

アジア・太平洋YMCA大会に参加

9月6日(日)～9月11日(金)、韓国テジョンにて第19回アジア・太平洋YMCA大会が開催されました。4年に一度開催される本大会はアジア・太平洋地域にあるYMCAが一堂に会し、目的理念、課題と目標、運営組織などを決める最高決議機関です。それと同時に、人々の交流の場でもあり、YMCAがアジアや世界で一体となる運動体であることを知る機会ともなります。今回は27カ国より400名を超える参加があり、熊本からは、国際ユース



が傾け、平和記念式典にも参列。各国のユースとの交流を通して、互いの違いを認め合うことの大切さを実感しました。コミュニケーションを取ることが苦手な子どもたちと過ごす「コスモスキャンプ」は、8月に阿蘇キャンパ場で開催。プールでの水遊び、バター・スネイクパン作りなどの野外活動で、笑顔が絶えない2日間を体験。YMCA学院児童福祉教育科で学ぶユースからは、子どもたちのサポートを通して多くを学べたと発表がありました。

発表後は、スリランカやミャンマーのカレー、フィリピンのアドボなど、国際色豊かな料理を食べ、ユースや会員、スタッフが見聞を深めました。

活動報告プログラム
コスモスキャンプ
国際青少年平和セミナー
インドスタディキャンプ
ポニーキャンプ
アジア・太平洋YMCA大会
西日本地区YMCAリーダー研修会
全国YMCAリーダー研修会

の2名と職員、計3名が参加しました。参加者のうち約120名はユース世代。各国の代表という自覚を持ち、自国の政治や環境、貧困といった社会問題に関心が高く、自分たちがこれからどう歩むべきか、問題意識を持って参加していました。各国の参加者から、日本の原発問題や安保法案等について日本人としてどうとらえているのかという質問が多かったようです。

それぞれの国の立場を超えて地球市民の視点で意見交換ができ、有意義な時間となりました。地域を超え、国を超え、YMCAが目指す「世界が一つとなるための」思いを共有でき、ともに歩んでいく人々との出会いは本当に価値あるものだと感じました。

職員 加藤泰文

YOUTH ACT

●アジア・太平洋YMCA大会に参加



写真右から
平川凜子さん 熊本大学法学部法学科2年
岡美乃莉さん 熊本大学医学部保健学科検査技術学専攻1年

体験時の感動を、多くの人と分かち合う

今年7月から国際ユースボランティアの活動を始めました。北部タイ支援のためのディスカッションや、スマトラコーヒーの販売など、ボランティアの経験を積んでいます。

9月6～11日に韓国で開催された「アジア・太平洋YMCA大会」にも参加。国や年齢を超えて様々な人たちと意見を交換しました。英語で自分の意見を伝えることは初めて。つたない英語でも熱心に聞いてくれたので、今後は英語力をもっと磨きたいと思いました。様々なプログラムで学んだことを多くの人に伝え、その時の気持ちを大切に続けたいです。

自分の意見を様々な人と交換したい

学生のうち海外を体験したいと考え、9月に参加した「アジア・太平洋YMCA大会」では、韓国の農村地帯で農業体験をしたり、ナイトパーティーで阿波踊りを披露したりと、初めての体験の連続。中でも、同年代の若者たちが自国の問題点、改善点などを理解して英語で意見を交わす姿が印象的でした。

YMCAでは、立場や年齢に関係なく意見交換ができます。私も多くの人と意見を交換しあい、社会人になっても自分の意見を言える人であり続けたいと思います。

REPORT

ソフトバレーボール大会を開催

日時/9月27日(日)9時15分
場所/益城町総合体育館
YMCAが4月から指定管理者として運営を行っている益城町総合体育館にて初めてソフトバレーボールフェスティバルを開催しました。4部門61チームがエントリー。キッズバレーの練習体験会も同日開催し、子どもから大人まで、約400名の参加により大盛況となりました。



チャレンジの部門ではルール講習も実施。参加者は経験にかかわらずソフトバレーに親しみ、互いに交流を深めました。

益城町総合運動公園
丸目陽子

日韓の医師がサッカー交流

日程/10月11日(日)
場所/横浜FC東戸塚フットボールパーク
創立36周年、第26回目の日韓YMCA医師蹴球親善試合(ドクターサッカー)が行われました。当初のアタックはなしで「怪我をしない程度に」という約束も試合が始まれば関係なく、非常に白熱した試合となりました。結果は1対1の引き分けでしたが、アウェイチームの得点は2倍になるというルールにより、優勝は韓国大邱チーム。長い歴史のあるこの交流が、これからも盛んになることを願っています。

職員 守田愛沙



タラント No.21

総主事 岡 成也

豊かさと共に

先日、ワイズメンズクラブの九州部会が阿蘇で開催され、西日本区・九州部のワイズメンの熱い想いにふれました。自然の恵みにつつまれ、阿蘇の豊かな食を堪能し、ゆったりとした時間の中で、改めて自然を満喫する機会となりました。赤水保育園園児による赤水太鼓、尾ヶ石保育園園児による虎舞の子どもたちの晴れやかな姿に、こころも身体も癒されるひとときでした。日々のあわただしさから、つい忘れかけている自然の恵みや豊かな時間を、志を共にする多くの仲間との親交を通して、取り戻したように思います。

一方で、この素晴らしい自然豊かな阿蘇の地においても過疎化が進んでおり、YMCAが地域においてどのような貢献ができるのか、改めて考えさせられました。地方創生の一環として都市部の高齢者の地方移住を政策として促しています。しかし、内閣府が世論調査で老後に備えての移住の意向について尋ねたところ、8割近くが今の居住地に住み続けたいと答えています。また、移住の意向があ

る人に移住先を聞くと半数が地方都市と答え、その希望者は20代が最も多いそうです。医療、介護の充実と生活面での利便性を重視しており、生活の将来設計をしっかりと持っていることがうかがえます。

不動産業界が実施している「住みたい、住みよい街ランキング(九州・沖縄)」において、熊本市近郊の街が1位になっています。比較的新しいベッドタウンとして現在も人口増加の傾向にあります。行政サービスや教育・福祉が充実して、様々なコミュニティが形成されているところが評価されているようです。少なからずこのコミュニティの形成に、YMCAも寄与しています。

人と人が交わり、よりよい生き方を求める人たちが集う場として、地域社会と共に歩んでいこうとしています。共に暮らす市民として地域社会の生き生きとした人間関係形成をダイナミックに働きかけていくことがYMCAの使命だと考えています。新しい発想で地域社会に貢献できるプログラムを積極的に発信していきたいと思えます。

行事カレンダー 11月

- 1(日) 国際協力青少年育成成年末募金スタート(～1/31)
- 6(金) 熊本・大邱YMCA役員協議会(～11/8)
- 7(土) 水前寺幼稚園バザー・子育て支援事業「親子登園」
- 8(日) 前進祭(中央)
- 9(月) 教役者会
- 11(水) YMCAフィランソロピー協会幹事会
- 12(木) 浜線美化活動(みなみ)
- 14(土) YMCA/YWCA合同祈禱会
- 15(日) 東部祭(東部)
- 18(水) 歌声広場わいわい(むさし)
- 21(土) YMCA学院オープンキャンパス⑭
- 22(日) YMCAサッカーフェスティバル
YMCA体操フェスティバル
- 23(月) YMCAフィランソロピー協会チャリティブチ駅伝大会
- 25(水) 歌声広場わいわい(みなみ)
- 29(日) 阿蘇ワークキャンプ(阿蘇)

情報 ピックアップ

東部祭

毎年恒例の東部祭を開催します。食べ物の出店やイベントなど盛りだくさんです。益金は東日本大震災被災者支援、国際協力青少年育成成年末募金、北部タイ山岳少数民族の子どもたちの支援に使用されます。ぜひお越しください。

日時: 11月15日(日) 11:00～14:00
 場所: 東部YMCA(熊本市中央区帯山2-1-11)
 内容: 食バザー、幼稚園児による歌と演奏、バンド演奏、ビンゴゲーム、スリランカ音楽、ラオスの踊りなど(予定)

お問合せ/東部YMCA
 TEL096-382-6661 FAX096-382-7928

市民クリスマス2015 岸義紘チャリティコンサート

サクソフォン奏者の岸義紘さんをお招きしてチャリティコンサートを開催します。コンサートの収益金は、日本YMCA同盟を通して、東日本大震災復興支援活動のため用いられます。

日時: 2015年12月3日(木)
 18:30開場 19:00開演
 会場: くまもと森都心プラザホール
 (熊本市西区春日1-14-1)
 チケット: 大人1,500円/学生以下1,000円
 (全席自由)
 チケット取扱 熊本YMCA各施設
 熊本YWCA

お問合せ/市民クリスマス実行委員会事務局
 熊本YMCA
 TEL096-353-6397 FAX096-324-7877

TOPICS 地域YMCAにまつわるトピックを順番にご紹介します。

地域とともに9年目

リフレスおおむた



大牟田市から指定管理者として運営を委託され今年で2期9年目を迎えます。

リフレスおおむたは、熊本県と福岡県の県境に位置し、南関ICから車で約5分、周辺

には「道の駅おおむた」をはじめ、ショッピングや観光も楽しめます。当施設は、体育館や研修室などの施設利用の他、屋内外に宿泊施設を完備しています。そのため合宿等多くの団体・個人が年間を通して利用されます。

また、老若男女誰でも参加できる人気講座も種類が豊富で、先日は米作り体験を行う小学生高学年グループ「なんでもやる隊」のメンバーを中心に、地元の方や高校生・大学の協力で稲刈り体験を実施しました。

リフレスおおむた 上田潤一

トーテムポール

阿蘇YMCA



阿蘇YMCAの入口でいつも皆さんをお出迎えしていたトーテムポールを、この度、リニューアルすることになりました。9月15日(火)に木材が到着。長さ9メートル、重

さは2トンあり、間近でみると大迫力です。まずはデザインをもとにボランティアの皆さんと下書き。チェーンソーアートのアーティストが大枠を彫り出したあとは、キャンプに来た親子や、YMCA学院生などの協力により細かな彫り作業が進められています。しかし完成はまだまだ先。多くの方のご協力をお待ちしています。

作業の経過は阿蘇YMCAのWEBページで紹介していますので、ぜひご覧ください。

阿蘇YMCA 山田真二



Kumamoto YMCA Network

- | | | | |
|------------|---------------|---------------|---------------|
| 中央YMCA | ☎096-353-6391 | みなみYMCA | ☎096-378-9370 |
| YMCA学院 | ☎096-353-6393 | 上通YMCA | ☎096-352-2344 |
| YMCA学院高等学校 | ☎096-353-6391 | 東部YMCA | ☎096-382-6661 |
| 本部事務局 | ☎096-353-6397 | ながみねファミリーYMCA | ☎096-385-0676 |

- | | | | |
|---------|---------------|-------------|---------------|
| むさしYMCA | ☎096-248-6334 | 水前寺幼稚園 | ☎096-362-4141 |
| 阿蘇YMCA | ☎0967-35-0124 | 就労支援センター | ☎096-312-1333 |
| 尾ヶ石保育園 | ☎0967-32-0213 | リフレスおおむた | ☎0944-58-7777 |
| 永草保育園 | ☎0967-32-0810 | 御船町スポーツセンター | ☎096-282-4111 |
| 赤水保育園 | ☎0967-35-0024 | 益城町総合運動公園 | ☎096-289-2433 |
| 黒川保育園 | ☎0967-34-0402 | | |

発行所/公財熊本YMCA
 〒860-0873 熊本市中央区新町1-3-18
 TEL096-353-6397(代)
 ●発行人/岡成也 ●編集人/神保勝己 定価60円 購読料は会費を含む

2015年度基本聖句

どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天に下る。マタイによる福音書18章19節

熊本YMCAの使命

共に生きる社会
 生涯学習の推進
 ボランティア活動

地球環境の保全
 ウエルネス活動
 平和な世界

ホームページ
www.kumamoto-ymca.or.jp
 メールマガジン登録
www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi

